

2023年度（2024年2月期）第3四半期決算概要

単位：億円	2022年度 3Q累計実績	2023年度3Q累計	
		実績	前年同期差
営業収益	3,499	3,873	+374
事業利益	562	728	+166
持分法投資損益	14	33	+19
その他損益	▲68	▲42	+26
金融損益	▲33	▲38	△4
税引前当期利益	476	681	+206
法人所得税費用	▲150	▲191	△41
非支配持分損益	4	2	△2
親会社所有者帰属利益	330	493	+163

単位：億円	2022年度末 実績	2023年度3Q末	
		実績	前年度末差
流動資産	3,785	4,286	+501
非流動資産	12,726	13,057	+332
使用権資産	5,734	5,890	+156
有形固定資産	1,233	1,261	+28
その他金融資産	1,070	1,327	+257
その他	4,689	4,580	△109
負債	9,711	10,003	+292
有利子負債	554	455	△99
その他	9,157	9,548	+391
資本	6,800	7,341	+541

今期 トピックス

- ▶ **既存店客数は11月で21カ月連続での前年超えを達成。また、日商も11月で27カ月連続での前年超えを達成。**
3Qもポストコロナによる外出の増加に加え、天候にも恵まれ人流が増加。進化系の中華まん「ビストロまん」や新しい「メロンパン」をはじめとした価値ある新商品の発売、ファミチキ累計20億食突破を記念した「ファミチキジャンボ」等のキャンペーンや人気のゲーム・アニメ等とのタイアップ企画を実施し、その機会を的確に捉えた。加えて、店舗のQSCレベルを向上することで、お客様に選ばれる売場づくりに努めた結果、客数・日商は継続して伸長、加盟店の収益も順調に増加。
- ▶ **ファミマのチャレンジ大発表会「ファミフェス」を開催し、ファミリーマートの様々な挑戦を披露。**
「もっと日本を元気にしたい」という思いからコンビニ業界初のファッションショーを開催し、「コンビニエンスウェア」の新アイテムや「ブルーグリーンプロジェクト」から植物由来の商品の発売等、コンビニエンスストアの持つ未来の可能性を発信。
- ▶ **SDGsの取り組み。**
「RE-CONVENIENCE」店舗を目指すファミマ!!麻布台ヒルズ店を開店。再生素材の活用やSustainabilityコーナーを設置。

親会社所有者帰属利益 前年同期差 +163億円

- ▶ 収益力向上（商品力・販促強化による日商・差益率の向上等） **+170億円**
- ▶ 外部環境変化等によるコスト増加等 **△23億円**
- ▶ 事業の基盤強化に向けた取り組み（デジタル施策等）の加速等 **△29億円**
- ▶ 新規事業の推進、関係会社の業績改善、減損損失等 **+45億円**

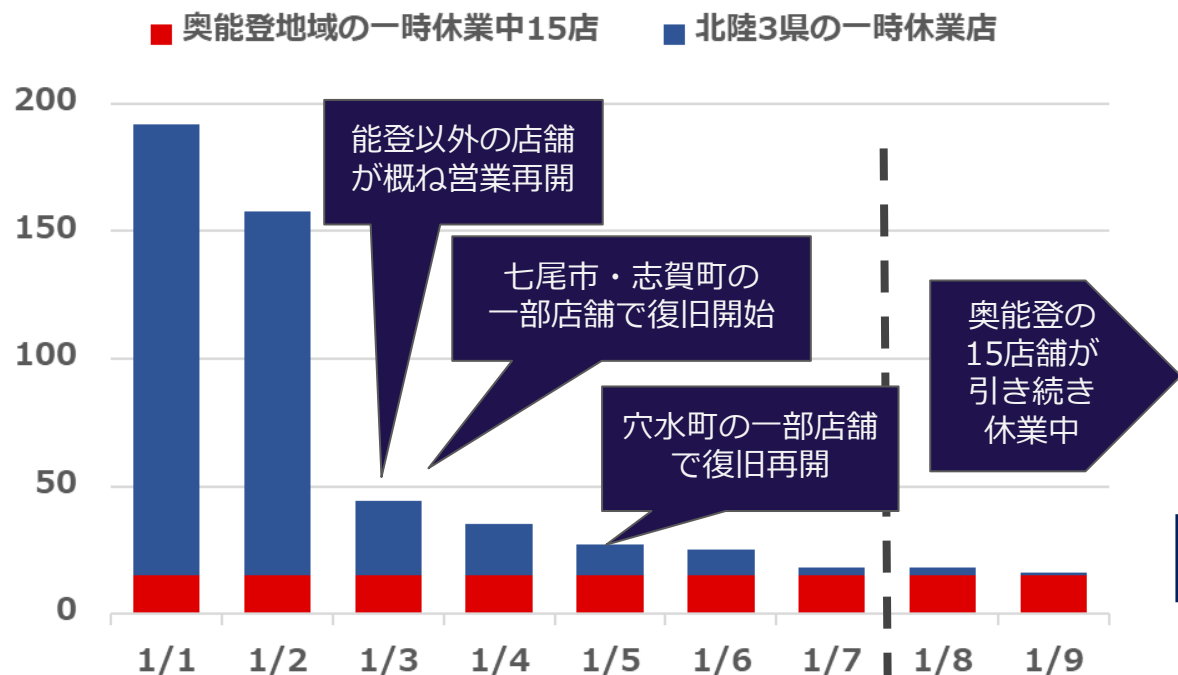
主要な 前期差増減

令和6年能登半島地震の対応について

【店舗復旧活動】

- 北陸3県および石川県においてファミリーマートはコンビニエンスチェーンのなかで最も店舗数が多く、地震直後は約200店が一時休業となるも、迅速に営業を再開。
- 震災直後から現地応援体制を組み、現状は他地域からの応援を含めて約150名体制にて、店舗の迅速な復旧に向けた売場の回復及び営業開始後の運営支援等を実施。
- 停電地域での社有ハイブリッド車の非常用電源活用、大型車両の入れない地域に対しては、七尾市をハブとした社有車による物資ピストン輸送や、特別車での配送なども実施。
- 全国展開しているコンビニエンスストアがファミリーマートのみである輪島市、珠洲市、能登町においても生活インフラとしての店舗機能回復に向け、社員による現地確認を開始。
- 今後も行政と連携の上で、長期的な復旧活動に取り組んでいく。

休業店舗数の推移

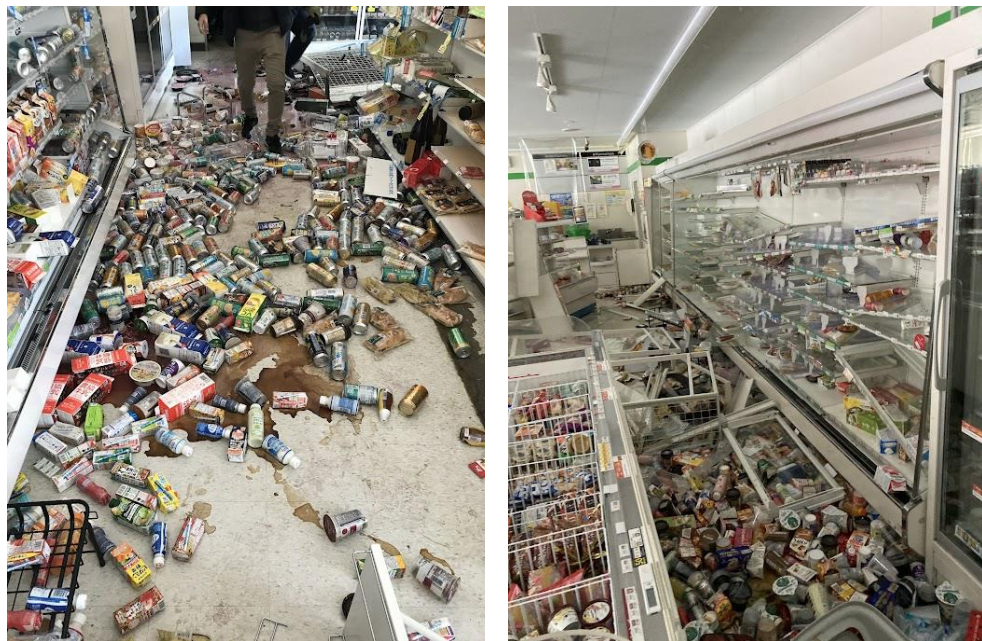


奥能登地域の店舗数（15店舗）

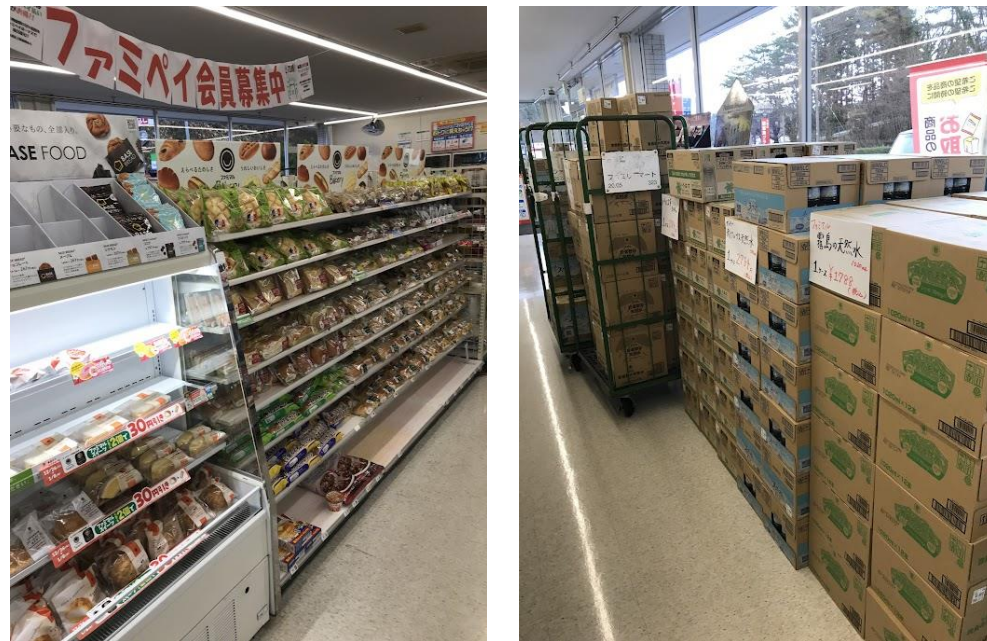


令和6年能登半島地震の対応について

【被害状況】



【復旧状況：FM七尾能登島店 1/5時点】



※150名体制での復旧作業を実施

【現地支援】

- 地震発生直後から水や食料の支援を開始。水については子会社の株式会社クリアーウォーター津南等から1/9までにPB天然水合計18万本以上の支援を実施。現地ニーズの変化に対応し、簡易トイレの供給も迅速に実施。
- 全国16,400店の店頭で募金活動を1/4から実施。
- 支援物資及び数量一覧

おむすび	菓子・惣菜パン	PB天然水	簡易トイレ
11.1万個	3万個	600ml : 17.8万本 2L : 0.6万本	8万個